

8月11日(水曜日)

ドル/円

中国経済の強さを確認

10日(火)の主な推移

チャート: 30分足 10日(火)朝6時 ~ 11日(水)朝6時

NYダウ平均

10644.25ドル
(-54.50ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.7682%
(-0.0625%)

NY原油先物

80.25ドル
(-1.23ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

- ① 仲値に向けたドル買い需要から、ドル/円は86円台に乗せる場面もあったが、仲値後には一転して国内資本筋によるドル売り優勢の展開となった。
- ② 夕方、上海株が下げ幅を拡大し、欧州主要国株価が安寄り後も下げ幅に拡大。これを受け、ドル/円では円の買い戻しが先行した。もっとも、円高進行は長く続かず、日本時間11日未明の米連邦公開市場委員会(FOMC)を控え、「これまで期待されてきた)緩和方向の政策変更はないのでは」との観測が広がると、ドルを買い戻す動きが強まった。なお、16時過ぎから日銀の白川総裁の記者会見があり、「円高は一般論として、短期的に輸出や企業収益の下押し要因」為替動向は景気に影響する要因の1つだが、金融政策を縛るものではない」と発言したが、相場への影響は限定的だった。
- ③ 日本時間11日3時15分、米連邦準備制度理事会(FRB)は市場予想通り政策金利を0.00~0.25%に据え置くと発表。また、FOMC声明にて、異例の低金利を続ける期間を「長期間」とする文言を据え置いた。ただ、声明では「生産や雇用の回復ペースはここ数カ月で減速した」と景気判断を下方修正した他、「政府機関債と住宅ローン担保証券(MBS)の償還資金を長めの米国債に再投資することで、証券保有を現在の水準に維持する。償還を迎える米国債のロールオーバーも継続」と、資産買い入れ継続を表明したことで発表直後にドルは全面安となり、ドル/円は85.17円まで下落した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 84.80— 86.10円

FOMCの内容がほぼ市場の事前予想の範囲内に終わり、また、金曜に米国の注目度が高めの経済指標を複数控え、本日の為替相場は小休止感が広がりやすいとみる。ただ、FOMCで景気回復ペースの鈍化が示されたことでややリスクに対する警戒感は強い状態。本日は中国で主要経済指標が発表されるが、ここでも経済の減速感を示すような結果となれば、世界的な景気回復減速に対する懸念がさらに強まり、リスクへの警戒感から円は上昇圧力が掛かりやすいとみられ、注意したいところだ。

また、米国の10年債入札にも注目したい。米長期金利は低下傾向が続いているが、FOMCで低金利政策の長期化や国債買い入れを背景に10年債入札への需要が旺盛となれば、米長期金利にさらに低下圧力を掛けることになる。そうなれば、ドル/円にはドル安・円高圧力となろう。(ジェルベズ)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/11(水)	11:00	○	(中) 7月消費者物価指数(前年比)	2.9%	3.3%
	11:00	○	(中) 7月小売売上高(前年比)	18.5%	18.3%
	11:00	○	(中) 7月鉱工業生産(前年比)	13.7%	13.4%
	21:30	○	(米) 6月貿易収支	-423億USD	-421億USD
	26:00	○	(米) 10年債入札(240億ドル)	—	—
	27:00		(米) 7月月次財政収支	-1807億USD	-1690億USD

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com